

陸甲三〇

大正十四年十一月十日

大正十四年十一月七日

内閣書記官長

内閣書記官

内閣總理大臣

法制局長官



外務大臣

古

陸軍大臣

西

文部大臣

乃

逓信大臣

透

内務大臣

及

海軍大臣

新

農林大臣

若

鐵道大臣

大藏大臣

華

司法大臣

達

商工大臣

五

別紙陸軍海軍兩大臣請議化學兵器手
當給與ニ關スル件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ

去 司 司

朕

器手當給與ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公
布セシム

御名 御璽

攝政名

大正十四年十一月十四日

内閣總理大臣
陸軍大臣
海軍大臣

付箋

朕

器手當給與、件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公
布セシム

御名 御璽

攝政 々々

大正十四年十一月十日

付箋

主任者

陸軍省監査課 大場主計
海軍省經理局 俵木主計中佐
横尾主計少佐

勅令第 三百十四 號
 化學兵器ニ関スル研究ノ爲其ノ試驗
 製造 検査 及 取扱ニ從事シ直接其危
 害ヲ受クル虞アル陸海軍軍人軍属(軍
 属ニ非サル職工ヲ含ム)ニ別表ノ化學兵
 器手當ヲ給ス
 本令ヲ適用スヘキ化學兵器ノ範圍及手
 當ノ給與細則ハ主務大臣之ヲ定ム

別表

考	備	陸 階		海 級		月 額
		陸	階	海	級	
一	主務大臣ハ常時ノ勤務ニ非サル者ニ対シ月額ノ二十分一ヲ起エザル範圍内ニ於テ日額ニ依リ手當ヲ給スルコトヲ得但シ一月内ニ於ケル支給額ノ合計ハ月額ヲ超ニルコトヲ得ス	將校同相當官、高等文官同待遇者	士官特務士官、高等文官同待遇者	六十圓以内	六十圓以内	六十圓以内
二	特ニ危険ト認ムル作業ニ従事スル者ニハ、	准士官、見習士官、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官、判任文官一等	候補生、准士官、判任文官一等	四十圓以内	四十圓以内	四十圓以内
三	シ一月内ニ於ケル其ノ支給額ノ合計ハ月額ノ五割ヲ超ニルコトヲ得ス	下士判任文官二等以下判任文官待遇者	下士官判任文官二等以下判任文官待遇者	三十圓以内	三十圓以内	三十圓以内
陸海軍ニ於ケル本表ニ掲ケサル者ニ對スル化學兵器手當ノ額ハ本表ニ準シテ主務大臣之ヲ定ム						

附則
本令ハ大正十四年五月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

理由書

歐洲大戰以來新兵器ノ進歩ニ伴ヒ化學兵器（毒瓦斯）ノ研究ハ軍事上最緊要ナリ然ルニ之カ試験製造等ノ現業ニ從事スルモノハ常ニ萬全ノ注意ヲ拂フモ尚絶エス其ノ中~~毒~~ニ罹リ或ハ不慮ノ災害ニ依リ死セ又ハ不具癘疾ト爲ルノ不幸ヲ招クコトアルハ歐洲ノ事例ニ徴シ明ニシテ一般ニ嫌疑且危險視セラレルモノナルカ故ニ航空勤務者ノ例ニ倣ヒ特ニ手當支給ノ制ヲ設ケ以テ其ノ發達獎勵ニ資スルノ必要アルニ由ル

化學兵器豫算説明

<p>第^三款 国防充備費</p>	<p>第^四項 兵器充備費</p>	<p>兵器製造 研究費</p>	<p>自十五年度 至二十年度 四・七万円</p>
<p>第^九款 研究費</p>	<p>第^五項 兵器充備費 (化學兵器)</p>	<p>御 佐</p>	<p>化學兵器加俸一八・三七六円 十八年度一四・一二円</p>
<p>第^二款 軍事費</p>	<p>第^五項 兵器及馬匹費</p>	<p>第^五目 兵器研究費</p>	<p>化學兵器加俸一八・三七六円 十八年度一四・一二円</p>
<p>第^二款 国防充備費</p>	<p>第^四項 兵器充備費</p>	<p>臨時部 彈藥費</p>	<p>自十五年度 至十八年度 特種彈藥及抑陣彈製造 單位製造設備五十五万円計上</p>
<p>第^二款 軍備改備費</p>	<p>第^三項 軍備改備費</p>	<p>器具機械及 圖書費</p>	<p>自十五年度 至十八年度</p>

[A] 歳出臨時部

[B] 歳出經常部

[C] 人

(毒瓦斯例)
軍用毒物

